十勝リハビリテーションセンター

2026年 秋号

REHAMAGA



食べることから
リハビリを支える

一人ひとりに寄り添う食事と栄養で、
回復とその先の暮らしを支えます。

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

食べることから、リハビリを支える。

病状や食べる力に合わせた食事の工夫、多職種との連携、退院後を見据えた栄養指導。栄養科では、毎日の食事を通して患者様の回復を支えるとともに、季節の行事食や全国ラーメン巡り、新しい食器など、「食べる楽しみ」も届けています。



お一人おひとりに合わせた食事の工夫

病状に応じた栄養バランスはもちろん、噛む力や飲み込む力（摂食・嚥下機能）に合わせた食事形態（ソフト食・刻み食など）の調整、アレルギーや嗜好への配慮を行っています。また、「リハビリの効果を最大限に高め、在宅復帰を支援する」ため、必要に応じてエネルギーやタンパク質をしっかりと補給する強化型栄養療法にも力を入れています。

多職種チームによる手厚い連携

医師、看護師、リハビリスタッフ（PT・OT・ST）と密に連携し、「安全に美味しく栄養を摂り、しっかりとリハビリを進められるか」をカンファレンス等で頻繁に話し合っています。また、入院時には多職種合同で患者様の状態を総合的に評価し、目標を共有した上で栄養管理をスタートします。



リハビリ効果を最大化する栄養管理とNSTの連携

回復期リハビリでは、栄養管理は運動と同等に重要です。低栄養によるサルコペニア状態※のままでは、リハビリの効果は上がりません。NST（栄養サポートチーム）は医学的見地から管理栄養士ら多職種の専門的知見を結集して栄養状態を整え、リハビリ効果の最大化を支援します。



リハビリテーション科
医師
森 崇博

※加齢や栄養不足などにより筋肉量や筋力が低下した状態のこと

寄り添う姿勢と専門性で支える、頼れる管理栄養士

管理栄養士さんは、リハビリ効果を高める栄養管理の提案はもとより、日々の患者様との対話から得た嗜好や性格への理解を活かし、補助食品の提案や食べるタイミングまで細やかに配慮してくれます。高度な専門性と寄り添う姿勢を兼ね備えた、チームに不可欠で頼りになる存在です。



言語聴覚士
日野 美貴



「食べる楽しみ」を届けます

入院中も四季の移り変わりや食事のワクワク感を感じていただけるよう、工夫を凝らしています。旬の食材を使った「季節の行事食」をはじめ、各地の名物を楽しめる「全国ラーメン巡り」など、毎日のモチベーションにつながる食のイベントを定期的に開催しています。



季節の行事食



秋の味覚御膳

- かに三色丼
- 天ぷら（南瓜・ピーマン）
- 菜の花の湯葉和え
- 季節の果物

全国ラーメン巡り 石川県



加賀味噌ラーメン

- 加賀味噌ラーメン
- 焼き餃子
- 梨ゼリー

＼食器を一新しました／

お料理の彩りや温度感を大切にし、持ちやすさ・食べやすさにもこだわった新しい食器で、毎日の「食べる楽しみ」をお届けします。



退院後の生活を見据えた栄養指導

当院では、入院中から退院後を見据えた個別的な栄養指導を行っております。ご自宅に戻られてからも、無理なく美味しく、健康的な食生活が続けられるよう、具体的な食事のコツや工夫をお伝えしています。また、嚥下障害のある方にもわかりやすい栄養指導、アドバイスを実施しています。



INFORMATION

セミナー開催しました



令和8年9月18日に北海道ホテルにおいて、第4回Tokachi Rehabilitation Seminarを開催しました。今回は「Frontier to Future 先進機器リハビリテーションの航跡と新地平－黎明期の挑戦が切り拓く未来への継承－」というテーマで、ロボットなど先進的なリハビリ機器を全国的に先駆けて活用された浅見豊子先生（医療法人安寿会 田中病院 理事長）にご講演いただきました。浅見先生からは「リハビリテーション先端機器－挑戦の歩みがつなぐ未来－」と題して、先端機器を現場に導入するための工夫やそれらの治療成績などのお話を聞くことができました。特に、人と技術をどのように組み合わせるのかが先端機器の活用には重要であるという、今後の医療・介護現場にとって貴重な講演となりました。当日は会場およびWeb参加を含めて約100名の方がご参加くださり、非常に有益な講演会となりました。お忙しい中、ご参加くださいました皆様、誠にありがとうございました。



左から向野先生、浅見先生、白坂院長



登録理学療法士対象

臨床認定カリキュラム開催のご案内

登録理学療法士の皆様を対象に、臨床認定カリキュラムをオンデマンド配信（一部対面）にて開催します。
先進リハビリテーション機器やAIを活用した最前線の取り組み、最新書籍に基づく臨床応用を学べる内容です。
詳細・お申し込みはQRコードよりご確認ください。

詳しくはこちら

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1
☎ 0155-47-5700
FAX 0155-47-5701

電話対応時間 平日／9:00～17:00　土曜／12:00まで
- 帯広駅から車でおよそ20分
- 十勝バス「十勝リハビリテーションセンター前」より徒歩2分

発　行　社会医療法人 北斗　発行人　橋本 郁郎

©2026 社会医療法人 北斗 / 本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

革新と伝統 ～Innovation and Tradition for the future～

TRIM
Tokachi community inclusive Rehabilitation Integrate Model

十勝地域共生リハビリテーション統合モデル
詳しくはこちらをご覧ください